

結局

After All

どういうわけか

君は違った風に考える

君が外へ出たときには。

それは変わらない

街中にいようと

高い丘の上にいようと。

時間があろうとなかろうと関係ない

春だろうと秋だろうと

何を食べなければならなかつただろうと

家の中から外へ踏み出すと

たつた一分にしても

君はより大きなことを考える

例えは何が大事なのかを誰かにどう納得させようかと

彼らが行ってしまった後で

あるいは今から三百年にどうやって辿りつくのかと

ヒッチハイクで

あるいはどんなかたちの月がそこに出でていたにしても

君はいかに努力すべきかと

もっともっとバターみたいになるために。

ガチャガチャ Clatter

僕を全く同じように愛しておくれ  
知られざるという言葉が  
空中で響くのと  
そうあるいは  
尖塔が極みによじ登っていくまさにそんな風に

そしてそれから  
石鹼の滑り落ちるのさえ超えて  
あるいは昼間の漂い  
水たまりが出来るだけ遠くへ飛び跳ねる  
そんな風に愛するために愛しておくれ

そして握手がまるで笑い顔だったように愛しておくれ  
あるいはこだまが自分らのトンネルを見つける時のように  
潜水と片すみを好むあれらの鳥たちのように愛しておくれ  
あるいはまさに陽射しが愛であり  
それが戸棚をじらすみたいに

すべてこんな風にそもそも愛しておくれ

そして窓を開けて  
今もそしてこれからも僕を愛しておくれ  
お昼の食事が  
行ったり来たりが起こっているさなか  
ガチャガチャいう音とともに  
出されるその時も同じようにたくさん  
そうカップがこぼれるような確かさで僕を愛しておくれ

それともそれ以上に  
夜が更けて  
聞いていることが夢に変わる時  
渦巻く騒音のように  
溢れるという言葉の内部で僕を愛しておくれ

静けさたち来たる

Quiets Come

全て上方

そう

全てそら

全ては翼か頂きか聳えているかだ

全ては上方のあれらの枝々がハミングして

甲高く口笛を吹いている--

どんな風に静けさたちが来る

或いは雲の輝き

この静止した世界は

そうという方に向かって飛んで行く

そしてきっと--

意志と全ての上に

そこではもっとのほとんどが

輝きを招いている